

2050年カーボンニュートラルに向けた

企業の脱炭素経営に関する考察

— 脱炭素経営＝企業価値向上の分析 —

氏 名 大庭 繁樹

指導教員 平田 エマ

要旨：

2050年カーボンニュートラルに向け、大きな社会システムの変革が迫られている。外部環境の変化は、企業にとってピンチであると同時にチャンスでもある。筆者が所属する北九州市もこの動きを企業の成長のチャンスと受け止め、政策を進めている。

そのような中、本研究の目的は、企業の脱炭素経営の実態把握及び脱炭素経営を後押しするための北九州市の支援策を考察することである。

65社のアンケートを行ったところ、脱炭素経営に向けた取組みをピンチではなくチャンスと受け止めている企業が多いことが分かった。また、脱炭素経営に取り組む目的を、規制遵守・社会貢献のような単なるコスト増・CSR的ではなく、経済的価値・人的価値・社会的価値といった企業価値向上のためCSV的に捉えている企業が多いことが分かった。

さらに、企業の脱炭素経営を進めるためには、北九州市の支援策・果たすべき役割として2つの方向性があることも分かった。1つは、それぞれの企業が脱炭素経営に向け取組みを進めるための伴走支援の充実化を図ること、もう1つは、企業単体への支援だけでは不十分であり、脱炭素社会実現に向け行政として一貫性を持って、市場・社会全体を巻き込んでいくことである。

本研究で得た知見を市の政策に反映することで、「脱炭素経営への取組みこそが企業価値向上・成長につながる」ことを明らかにしていきたい。